

図 2.16 データ計測に異常が見られる期間特定のための方向別 QV 図 (赤太線で囲まれた年度を除外)

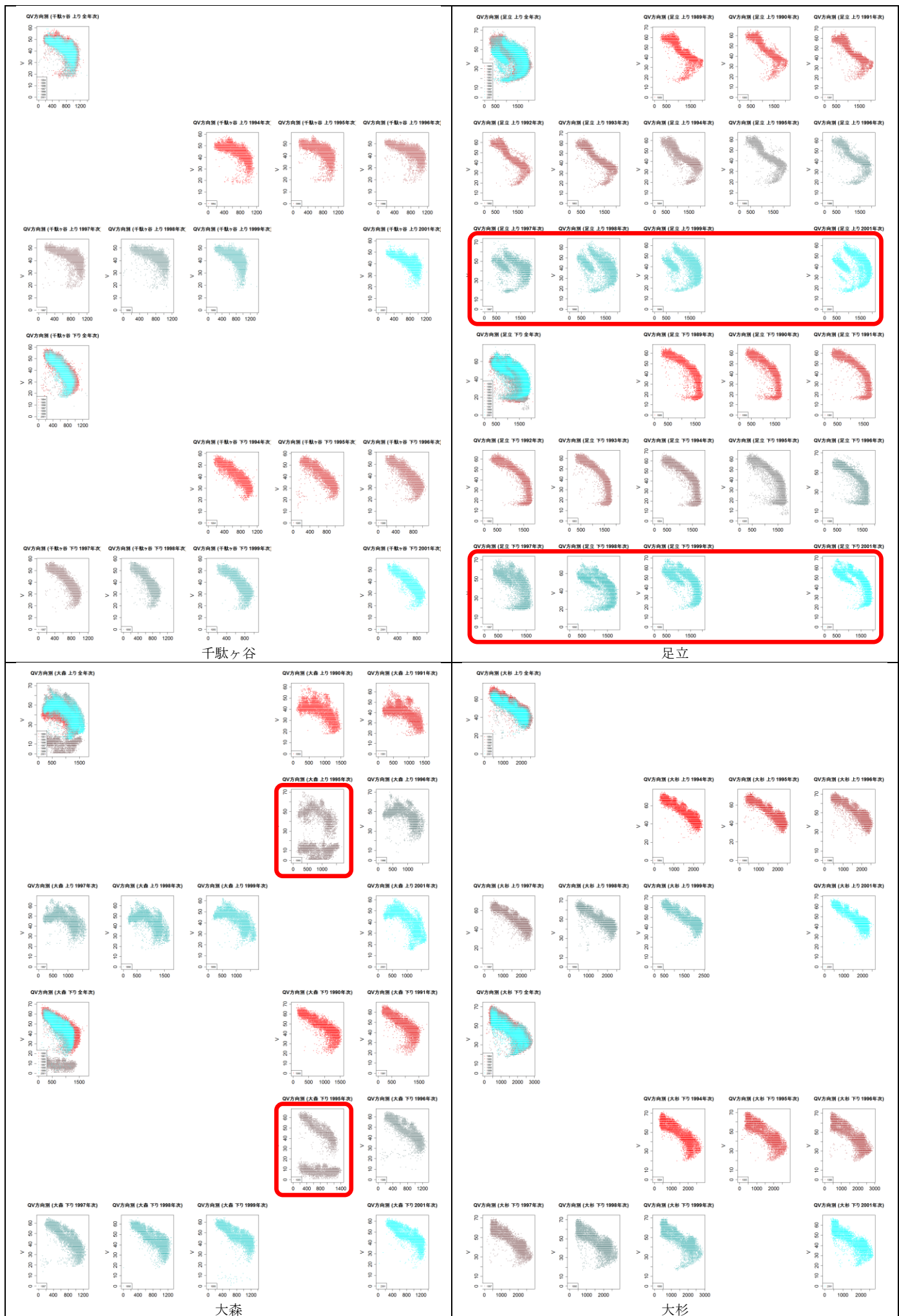


図 2.17 データ計測に異常が見られる期間特定のための方向別 QV 図 (赤太線で囲まれた年度を除外)

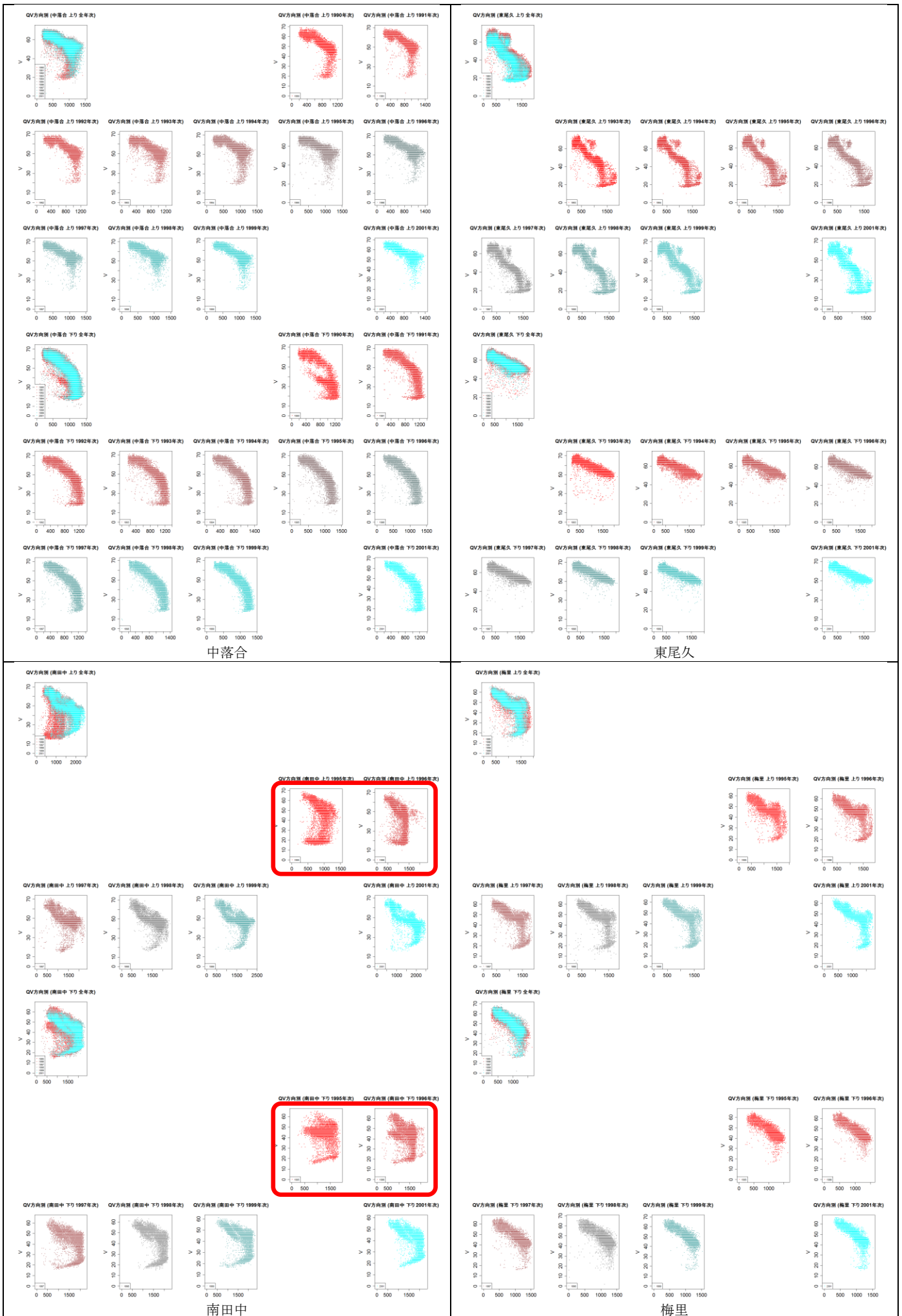


図 2.18 データ計測に異常が見られる期間特定のための方向別 QV 図 (赤太線で囲まれた年度を除外)

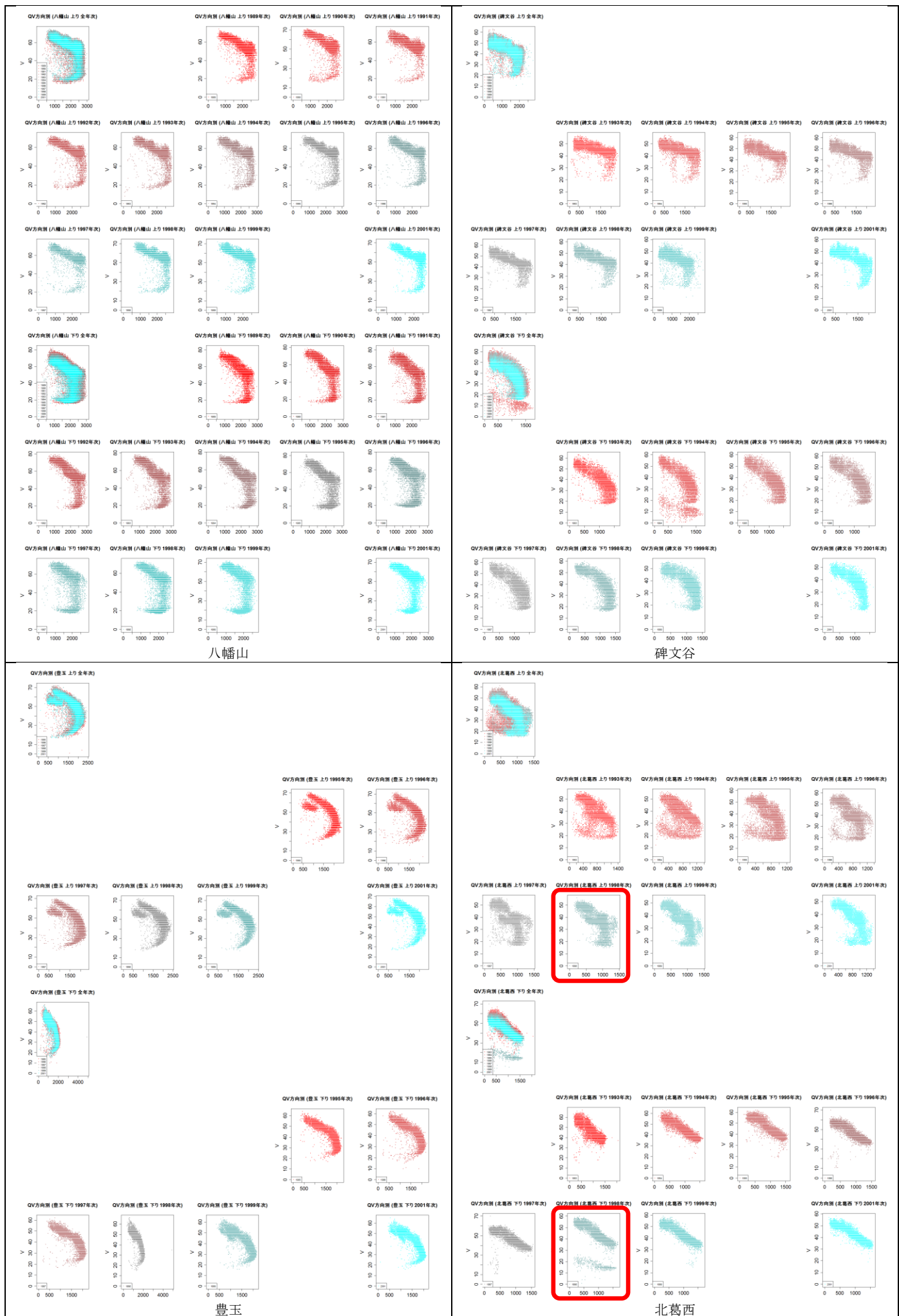


図 2.19 データ計測に異常が見られる期間特定のための方向別 QV 図 (赤太線で囲まれた年度を除外)

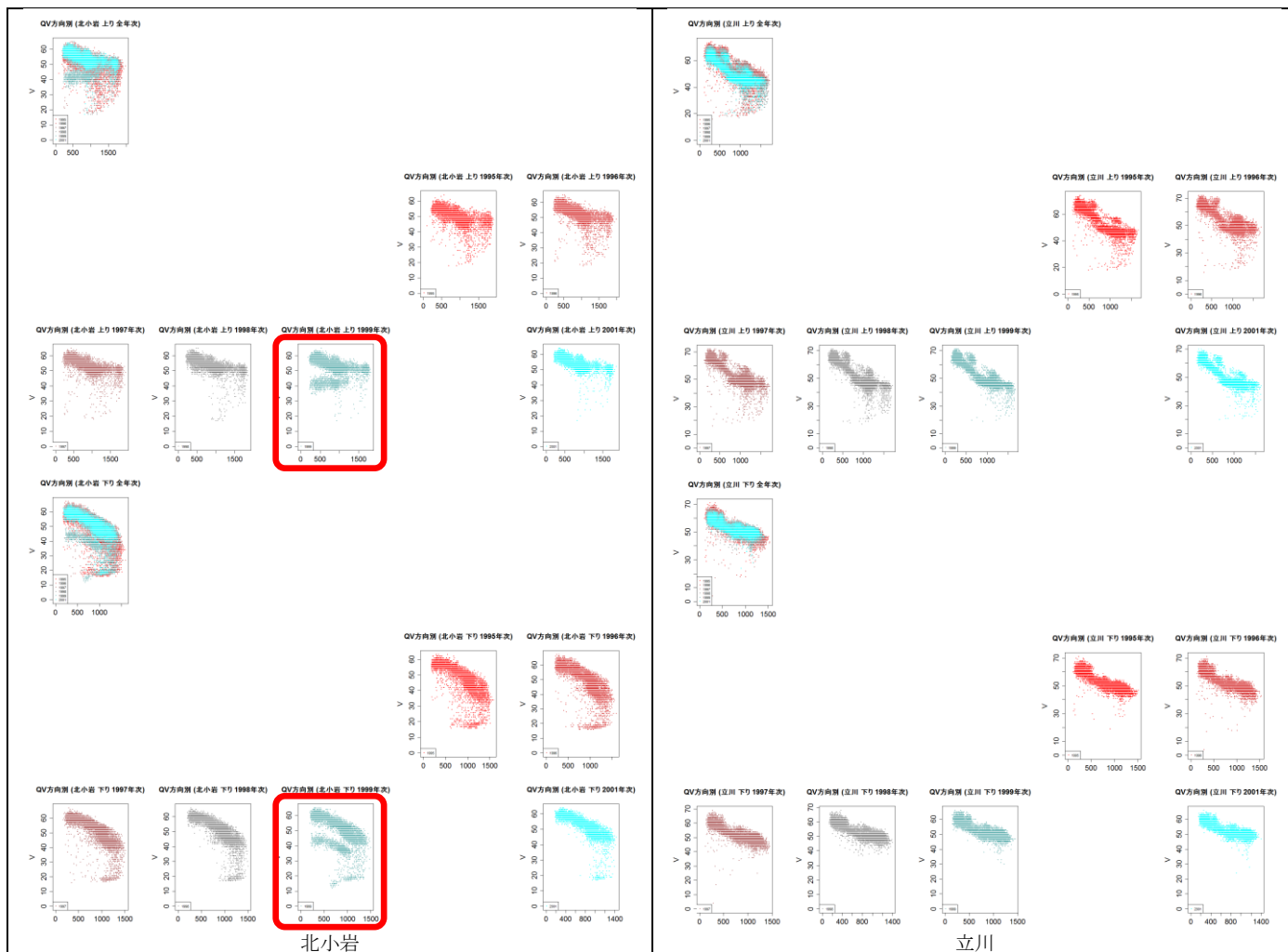


図 2.20 データ計測に異常が見られる期間特定のための方向別 QV 図（赤太線で囲まれた年度を除外）

第3章 日単位の季節変動

3.1 本章の概要

第2章で述べた通り、本研究では、従来の道路交通センサスの限界を乗り越えるため、自動車交通の季節変動に着目する。本章で、まず自動車日交通量などの日単位指標について、季節変動の影響力を確認し、また長期にわたり広域的に確固として通用する共通の季節変動パターンが存在するかどうかを検証する。そのため、第2章で説明した東京都環境局による東京都一般幹線道路22か所の道路断面における実際の時系列データに基づいて、前章提示の2.4～2.6式に沿って季節変動特性係数を計算し、実際にそれら係数に繰り返し出現するパターンが存在し、そのパターンが長期間に渡り確固として出現しているかどうかを確認する。

本章の分析の流れを表3.1に示す。本章では、表3.1に示す順番で、日単位の各種自動車交通量指標について季節変動の分析を行う。

表 3.1 日単位の季節変動の分析の流れ

番号	分析方法
1	基本的な統計特性の確認
2	変動特性係数の抽出
3	抽出された季節変動特性係数の検証
4	日々の変動に占める季節変動・偶然変動の大きさの確認
5	季節変動が日々の変動に及ぼす影響度の確認
6	季節変動パターンが繰り返し出現する強さの確認
7	季節変動パターンの年度間・断面間の類似性の確認

3.2 日単位の自動車交通量指標の基本的統計特性

3.2.1 日交通量

年間平均日交通量（以下、AADT : Annual Average Daily Traffic と記す）の推移を図3.1ならびに表3.2に示す。これらの図表では、第2章で述べた通り、季節変動を正常に抽出・分析する上で妨げになると考えられる様な日や年度をあらかじめ除外している。図3.1に示すように、今回調査対象とする各道路断面のAADTは約3万台～9万台と、箇所によって大きく開いている。年度の経過とともにAADTが殆ど増減変化しない道路断面が多くを占めるが、増大・減少している道路断面も存在する。年度経過に伴いAADTに増減変化が見られる道路断面が存在することは、時系列データとしての日交通量に長期傾向変動が存在することを示唆しており、季節変動を抽出する上で注意を要する点である。